

2 管理調整部

アジアヨーロッパ大陸間のマルチモード国際物流シミュレーションモデルと政策分析

A model development and policy analysis for international multimode logistics simulation between East Asia and Europe

(研究期間 平成 25～28 年度)

管理調整部 国際業務研究室

室 長 柴崎 隆一

[研究目的及び経緯]

本研究課題の目的は、①海上・陸上・航空の各モードを含む東アジア＝欧州間国際貨物輸送について、現況および将来計画を把握したうえで経路選択モデルを構築し、政策シミュレーションや将来予測・政策評価を行うこと、および②多数の内陸国を擁する中央アジア地域を対象に、国際物流の現況および将来計画を把握したうえで、国際陸上輸送を中心としたマルチモードの国際物流モデルを構築し、政策分析および将来シミュレーションを行うことである。

本年度は、これまでに構築した海上と陸上の双方を含む国際物流シミュレーションモデルをさらに改良し、陸上ネットワーク（道路、鉄道）についても容量制約（混雑）を考慮したうえで、このモデルを南アジア地域および中央アジア地域に適用した。また、これまでの研究成果を国際会議等において発表し（招待講演を含む）、学術誌への投稿等も行った。このうち1件については当該会議（東アジア交通学会）の優秀論文賞も受賞した。また、中間報告会として公開のワンデーセミナーを実施した。

海洋空間計画の策定と国際ネットワーク形成に関する基礎的研究

A strategic study on maritime spatial planning and international networking

(研究期間 平成 27～29 年度)

管理調整部 国際業務研究室

室 長 柴崎 隆一

[研究目的及び経緯]

本研究課題全体の目的は、近年その海洋管理に対する有効性が指摘されている海洋空間計画の策定と運用に関する諸課題に着目し、我が国の領海及び排他的水域からアジアの海域までを視野に入れた、統合的かつ持続可能な海洋管理のための制度的、政策的枠組みに関する理論を構築することにある。国総研では、東京大学加藤教授と共同で、包括的な海洋管理の観点から重要な政策課題の抽出や、政策課題間の優先度について分析を行うことを目的に、大洋州島嶼国（パプアニューギニア、フィジー等 14 か国）を対象とした国際海上コンテナ流動モデルを構築し、国際交通をめぐる環境の変化等が他のステークホルダーへ及ぼす影響・経済効果などについてのシミュレーションやリスク評価を行うものである。

本年度はプロジェクトの初年度であり、フィジー、ソロモン諸島、バヌアツ、ニュージーランドの 4 か国で現地調査を実施し、プロトタイプモデルの構築を行った。